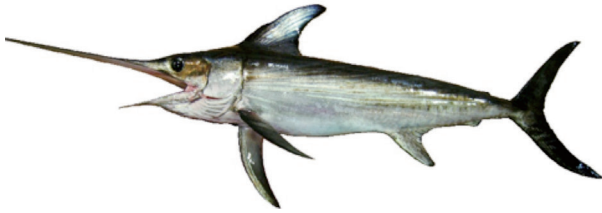


# メカジキ 中西部北太平洋

Swordfish, *Xiphias gladius*



## 利用・用途

切り身（ステーキ）、刺身、寿司、煮付け

## 管理・関係機関

中西部太平洋まぐろ類委員会（WCPFC）  
北太平洋まぐろ類国際科学委員会（ISC）

## 我が国漁業の特徴

漁獲の半分は以上は、本種を主対象に浅く漁具を設置する夜間のはえ縄で漁獲するが、大目流し網、突きん棒、まぐろ類を狙うはえ縄の混獲でも漁獲する。

## 最近の動き

2014 年 2 月に ISC カジキ作業部会において最新の資源評価が行われ、現在の資源量は乱獲状態になく、漁獲も過剰漁獲状態ではないとされた。この結果は同年 7 月に ISC 本会合で承認された後、8 月の WCPFC 科学委員会に報告された。

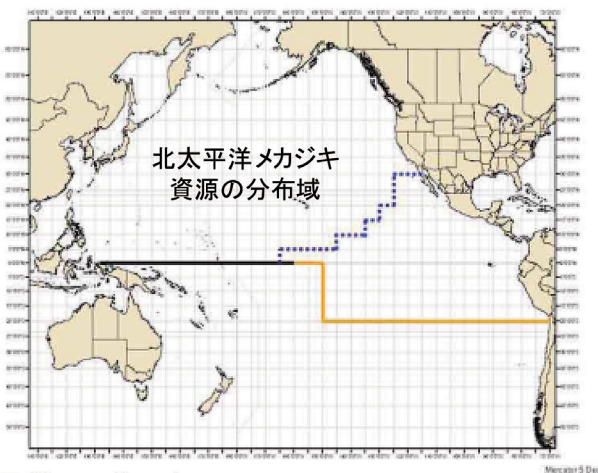
## 漁業資源の動向

ISC に報告された北太平洋におけるメカジキの総漁獲量は、1960 年前後に 2 万トンを上まわったが、その後急激に減少し、1 万トン前後に落ち込んだ。しかし 1980 年代以降米国及び台湾の漁獲量の増加により、全体で 1.5 万トン以上になった。漁獲統計はまだ不十分なので今後更に整備する必要がある。2000 年代に入ると、台湾の漁獲量が増加したものの、米国やメキシコの漁獲量が減少したために、総漁獲量は再び減少している。

我が国の漁獲量は、1980 年代後半までは 0.8 ～ 1.2 万トンであったが、1994 年以降は一貫して減少傾向にあり、2011 年には歴史的な最小漁獲量の 4,350 トンになった。1990 年代以降の漁獲量の減少は、遠洋・近海はえ縄による漁獲の減少によるものである。

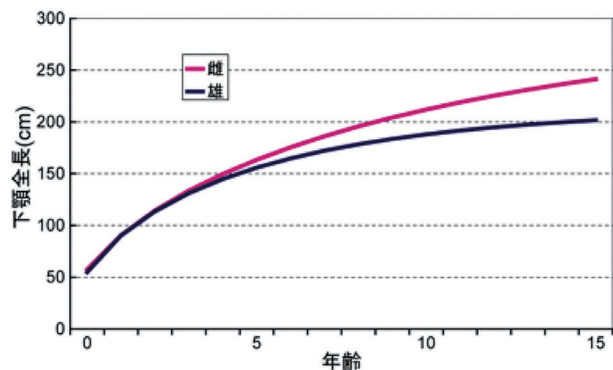
## 生物学的特性

- 寿命：15 歳以上
- 成熟開始年齢：3 歳
- 産卵期・産卵場：周年、熱帯・亜熱帯海域
- 索餌期・索餌場：秋から冬、温帯域
- 食性：魚類、頭足類
- 捕食者：調査中



北太平洋のメカジキ系群の分布域

中西部太平洋系群の分布は黒線で示した赤道以北の海域、東部太平洋系群の分布は黄線で示した海域、両系群の境界線は青い点線で示した。



北西太平洋のメカジキの成長曲線 (Sun *et al.* 2002)

### 資源状態

本資源の最新の資源評価は、ISC カジキ類作業部会において 2014 年 2 月に行われ、現在の資源量は乱獲状態になく、漁獲も過剰状態にないと考えられた。この結果は同年 7 月の ISC 本会合で承認されたのち、同年 8 月の WCPFC 科学委員会に報告された。次回の資源評価は 2017 年に予定されている。

以上より、本資源の資源状態は健全であり、近年の漁獲量を維持するために十分なレベルであると評価された。結果は同年 7 月の ISC 本会合で承認されたのち、同年 8 月の WCPFC 科学委員会に報告された。次回の資源評価は 2017 年に予定されている。

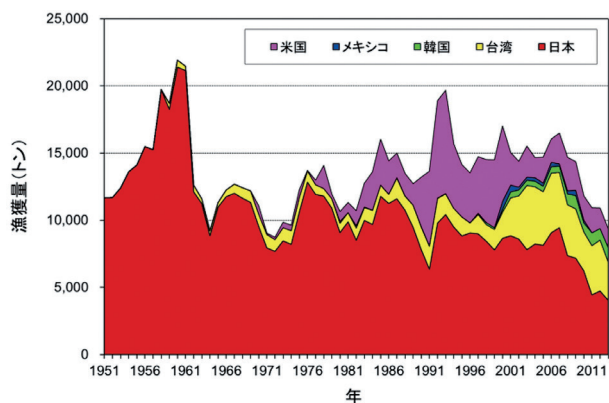
なお、従来、東部太平洋北部海域の群れは、中西部北太平洋の群れと同じ系群であると考えられていたが、2009 年 2 月に行われた ISC カジキ類作業部会で既存の情報をレビューした結果、両者は複数の DNA 解析結果から系群が異なることが示唆されていること、両海域ではえ縄の CPUE トレンドが異なることから、両者は別系群と判断され、資源評価も別個に行われることとなった。これを受けて、日本のはえ縄 CPUE の解析を行い、その結果を基に両者の間の境界を図に示したようなラインとすることが合意された。

### 管理方策

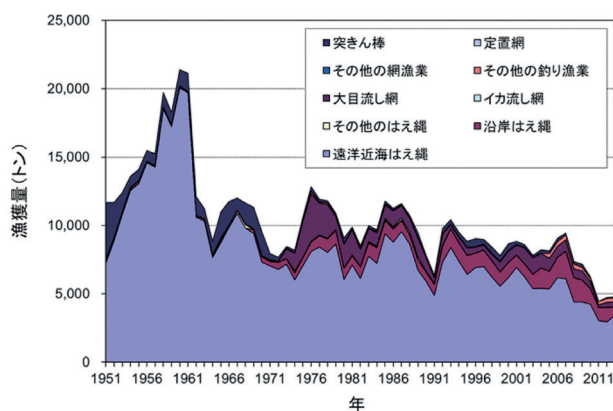
資源状態は健全であるとの ISC の資源評価結果もあり、本資源に関する保存管理措置導入の議論は行われていない。

### メカジキ (中西部北太平洋) の資源の現況 (要約表)

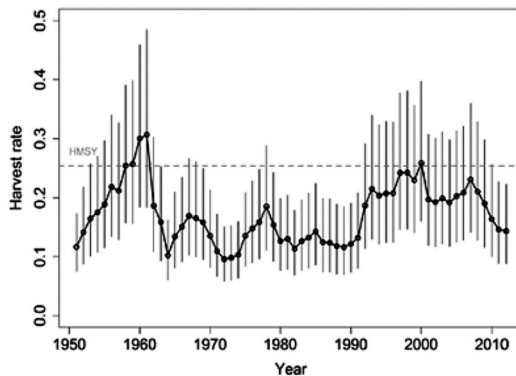
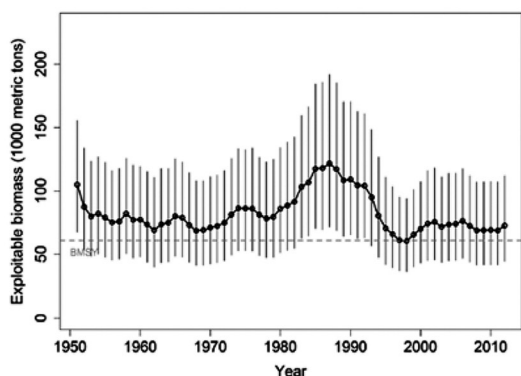
資源水準	高 位
資源動向	安 定
世界の漁獲量 (北太平洋) (最近 5 年間)	9,367 ~ 14,363 トン 平均：11,477 トン (2009 ~ 2013 年)
我が国の漁獲量 (北太平洋) (最近 5 年間)	4,045 ~ 7,180 トン 平均：5,330 トン (2009 ~ 2013 年)
最新の資源評価年	2014 年
次回の資源評価年	2017 年



北太平洋 (赤道以北) におけるメカジキの国別漁獲量



北太平洋 (赤道以北) におけるメカジキの我が国の漁業種別漁獲量



プロダクションモデル解析の結果

左図は、開発可能な資源量 (黒丸、1951 ~ 2012 年) 及び最大持続生産量の生産に必要な資源量 (点線、 $B_{MSY}$ ) を示す。右図は、漁獲率 (黒丸、1951 ~ 2012 年) 及び最大維持生産量の生産に必要な漁獲率 (点線、 $H_{MSY}$ ) を示している。両図とも、エラーバーは 95% 信頼限界を示す。